ISSN 2186－747X

さいたま市文化財時報

榧（かや）りぽーと

第59号

「与野町絵図」を紐解く

さいたま市は、誕生から早15年目となります。市の発展はめざましく、以前と同じ街中を歩いていても、道を間違えたかと錯覚してしまう程、見違える景色も多くなりました。街の発展は誇らしくもあれば、一方で、見慣れた景色が少なくなることに寂しさを覚えることもあります。大きく変わり行く街の姿にも、森、川、道や建物等の中に、街の面影を見つけることで、安心することがあります。先人が見たであろうその面影は、今を生きる私たちに懐かしさを与え、昔と今を繋ぐ歴史の道しるべとして重要な役割を果たしてくれます。現在、多くの人々で賑わうさいたま新都心、そこから西へ約1.5km進むと、本町通りがあり、かつて商業の街として賑わいを見せた与野町の面影を見ることが出来ます。

下の写真は、さいたま市指定有形文化財（歴史資料）「与野町絵図」（個人蔵）の全図です。江戸時代後期の文政７年（1824）頃の南北に広がる与野の町並みを、東から西を望んで描いたものです。つまり、北が右、南が左となります。今号では、「与野町絵図」を紐解き、本町通りを北から南へ進みながら、今に残る与野町の面影を紹介します。

西

南

北

東

▲市指定文化財「与野町絵図」

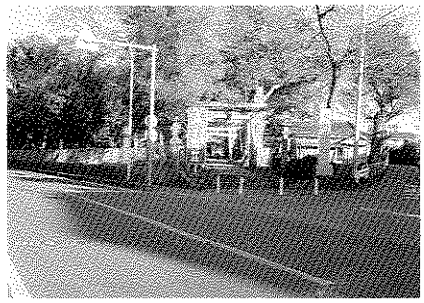
●氷川神社、長伝寺

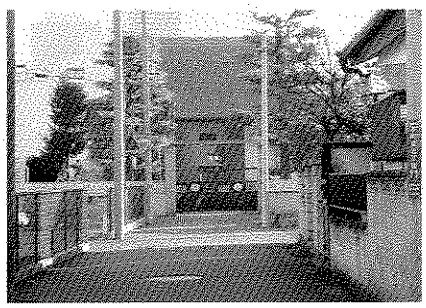
図１（次項）、右端（北）にある森に、「氷川山」の文字が確認できます。与野町の北に広がる森ですが、現在の本町通り沿いの氷川神社です。氷川神社は、小村田村と与野町の境に位置し、両所の鎮守とされ、扇型に広がる社地は、扇の宮と地元の人々に呼ばれました。境内の享保４年銘（1784）の庚申塔は、元々氷川神社の北の路傍に置かれていたもので、左右側面に「従是左川越道」、「従是右奥州道、大宮道」と刻まれています。氷川山は、宿場町大宮、更に城下町岩槻を経由する奥州道と、城下町川越へ繋がる川越道との合流点であり、与野町の北の玄関と言えます。与野町は、古くは鎌倉街道の要所として、江戸時代には相模、甲斐と奥州街道を繋ぐ脇往還の継立場として、様々な街道が集まる交易の拠点であり、市場町として栄えました。室町時代の文書と伝わる「市場祭文」には、近郷32か所の市の一つとして与野の市の名が見られ、江戸時代には、四・九の市として、月６回、４と９が付く日に市を開く六斎市が開かれました。境内には、与野町の人々が市場繁栄を祈

願して建立したと伝わる市神様を祀った祠があります。

図1の「氷川山」からすぐ左(南)に目を移すと、通りの下(東)に「寺」と書かれた長伝寺があります。長伝寺の正式な開山は不詳ですが、天正9年(1581)、後に江戸・増上寺第12世住職を継ぎ、後陽成天皇から普光観智国師の称号を与えられた存応和尚が、浄土宗に改めて開山した由緒ある寺です。

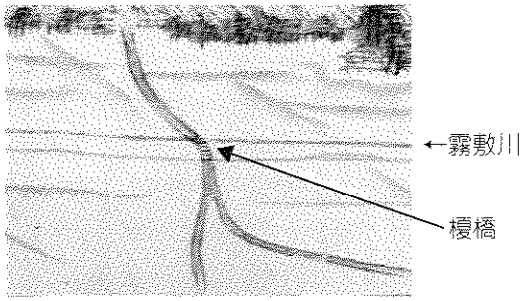
▲図1　氷川山、寺


▲氷川神社(図1の「氷川山」)


▲長伝寺(図1の「寺」)

●霧敷川と赤山街道

図2は、図1の長伝寺のやや左(南)ですが、中央に見えるのは、田園の中を南北に流れる一本の「川」、霧敷川です。手前(東)に伸びる道は、榎橋(現赤山橋)で霧敷川を越え、二股に分かれています。二股の道をさらに下(東)へ進む道は赤山街道です。右(北)へ曲がるのが中山道と合流し大宮宿方面へ続く古道です。赤山街道は、途中見沼通船堀のある八丁河岸を経由し、関東郡代の伊奈忠治が築いた陣屋(現川口市赤山)へと繋がる道です。この道もまた、赤山街道や中山道から与野町へ多くの人や物が流れ集まる主要な道ということが分かります。



▲図2　霧敷川と赤山街道

●大火と蔵造り

絵図を凝視すると、多くの茅葺屋根の建物の中に混ざり、蔵造りの建物を垣間見ることができます。本町通り中央付近、図3の「与野町」と書かれた右上に、蔵造りの建物が2軒連なるのが確認できます。与野町の名主を勤めた井原家と思われます。与野に残る古文書によると、江戸時代の与野町は度重なる大火に襲われ、特に文政2年(1819)の大火では、幕府が凶作に備えた貯蔵蔵を含め町の8割が焼失し、文政6年(1823)にも、下町を中心に火災が起きたと伝わります。文政7年頃を描いたと伝わるこの「与野町絵図」は、デフォルメはあるものの、復興の過程にあった与野町の姿と言えます。大火が原因で、防火性の高い蔵造りの建物が増えていく移り変わりは、川越の蔵造りの町並みに先立つものでした。江戸時代後期、昌平坂学問所がまとめた地誌「新編武蔵風土記稿」によると、与野町には304件の家数があり、その数は当時の大宮宿、浦和宿を凌ぎ、特に、中町は道の左右に軒が連なり道幅も広かったため、江戸の町並みに良く似ていたと記されています。住宅の密集する中町は、防火上の観点から道幅が広くされ、また空いた敷地を有効に利用し、市場が開かれたものと考えられます。

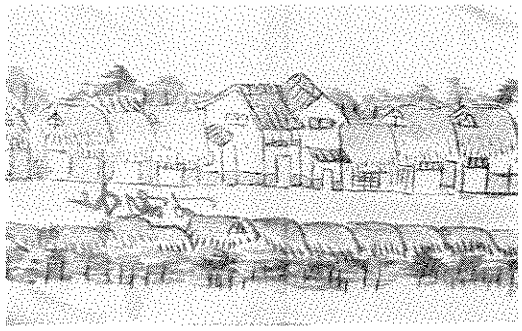


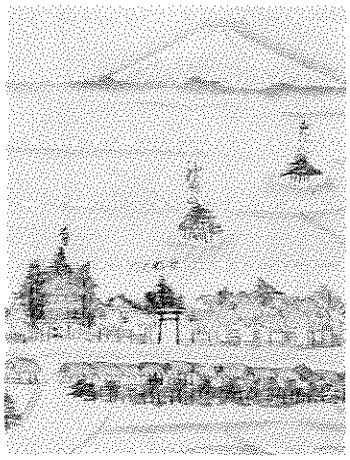
図3　中央に蔵造りの建物を描く

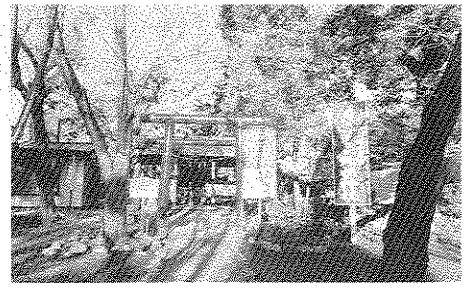
●神明大門、神明山、ごんげん

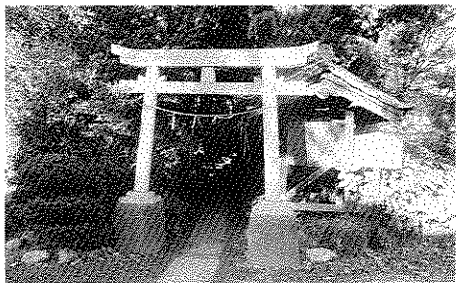
絵図上方(西)には、本町通りと並行するように、富士山と秩父の山々の広大な景色も描かれています。図4(次項)、富士山の描かれたすぐ真下に目を移すと、本町通り沿いに「神明大門」とともに鳥居が描かれています。現在、通り沿いには鳥居はありませんが、この場所は、絵図上「神明山」と書かれた当時の「神明社」、現在、与野公園内にある天祖神社へ繋がる参道入口に当たります。明治時代初頭、新政府による戸籍法の制定、寺請制度の廃止は、一村一社の体制を推し進めました。先述の氷川神社は、小村田村の村社になり、神明社は

与野町の村社として天祖神社と名を改め、これを機に与野町有志により社地周辺の公園化運動が起こり、与野公園が整備されました。

「神明山」から右上(北西)、奥にある「ごんげん」は、現在、新大宮バイパス沿いにある大黒社で、当時、「蔵王権現社」と呼ばれていました。草鞋を奉納すると足腰が強くなる御利益のある神社として、今日も地元の方々に愛されています。


▲図4(「神明大門」、「神明山」、「ごんげん」)

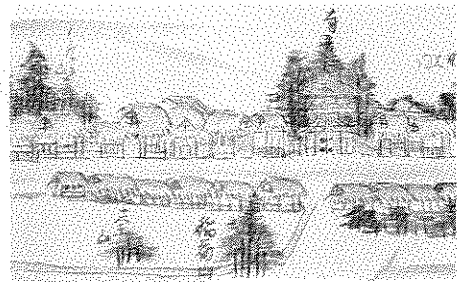

▲天祖神社(図4の「神明山」)

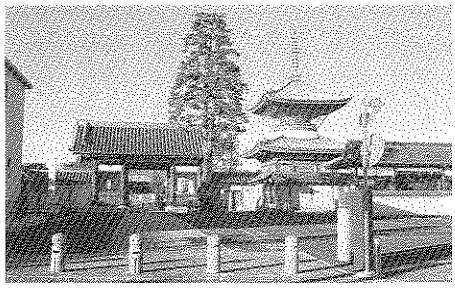

▲大黒社(図4の「ごんげん」)

●圓乗院と石地蔵、天王山、稲荷山

図5にひと際目立つ「寺」がありますが、圓乗院です。山門とその奥にある本堂の様子もしっかり描かれています。圓乗院は、鎌倉幕府の有力御家人の一人、畠山重忠が道場村(現桜区道場)に創建し、慶長年間、中興の僧・賢明上人が与野町に移建したと伝わります。「新編武蔵風土記稿」によれば、与野町は通りを三分し、その境ごとに石地蔵を建て上町、中町、下町の町の境としたと伝わります。中町と下町の境にあった石地蔵の一体は、圓乗院の境内にある元禄13年(1700)銘の石造地蔵菩薩立像(市指定有形文化財)と伝わります。なお、本町通りから先述の赤山街道に入ってすぐの場所にも石造地蔵菩薩立像(市指定有形文化財)があり、これも元々、上町、中町の境にあった石地蔵と伝わります。

圓乗院の正面の道を本町通りを超えまっすぐ下(東)へ進んだ角に、「稲荷山」があり、更にその左(南)に曲がる道沿いには「天王山」と描かれています。現在、この「天王山」が描かれた地には、津島神社がありますが、「稲荷山」については、詳細は不明です。


▲図5(「寺」、「稲荷山」、「天王山」)

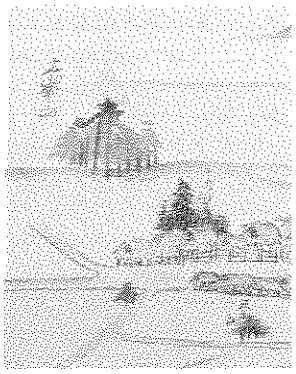

▲圓乗院(図5の「寺」)

●しなら山・上峯山

本町通りの南端、絵図の左端まで来ると、二股に分かれる道が描かれ、現在の庚申堂の地になります。庚申堂堂内には、元禄3年(1690)3月に与野町有志が建立した庚申塔が安置されて、その右(西)側面には「是甲州道」、左(東)側面には「是江戸道」と刻まれています。図6(次項)で、左上(南西)の道を行けば、羽根倉河岸(桜区大字下大久保)、引又(志木市)、日野宿(日野市)と甲州街道へと繋がる羽根倉道へ、そのまま左(南)へ直進すれば現在の西堀を経由し江戸方面の古道へ繋がったと言われます。特に、羽根倉道は、羽根倉河岸から荒川を通じて江戸、浅草まで水運による活発な交易が行われ、与野町の発展を支える主要な道でした。この道は、特に傾斜がきつく、羽根倉河岸からの積み荷を与野町へ運ぶ際の難所でした。図6の二股の道の分れ目、直前の上方(西)に「しなら山」の文字が見られます。しなら山は、与野町の小名、篠原(しのはら)の地名が転訛したそうです。

「しなら山」の左上(南西)に「上峯山」とあります。先述の羽根倉道を進むと諏訪坂、諏訪神社があり、こ

の付近を「上峯山」とする説があります。徳川家康が江戸へ入国した際、その側近、本多正信が、現在の上峰の円福寺周辺に領地を与えられ、この地が要害であったため陣屋を構えたとの伝承もあります。場所は定かではありませんが、現在、新大宮バイパスが通る付近は、明治、大正期の地図を調べると、確かにこの地一帯に高台があり、ここを持って「上峯山」とする説もあります。



▲図6　上峯山、しなら山

▲図6の二股の道と庚申堂

●絵図を訪ねて

与野町は、民俗学者・柳田国男をして、「櫻並木の最も美しきは、埼玉縣與野町なり、浦和及大宮より各一里あり、春の末に此町に遊びに行きしには、町には市立ち、落花街に満ちて夢の国を行くが如くなりき」と言わしめました(明治44年・並木の話より)。晴天の青空、白漆喰の蔵造りの建物、上空を埋め尽くす桜並木のトンネルが織りなす情景は、とても美しいものだったでしょう。

現在は、桜並木も姿を消し蔵造りの建物も減り、街並みも変わりつつあります。しかし、今も本町通りを歩けば、多くの旧街道が集まり、由緒ある寺社仏閣が立ち並び、所々で左右の軒の間隔が広くなった場所には、市が開かれた町の面影を感じることも出来ます。また、今回紹介することが出来なかった多くの文化財も残ります。皆さまも是非、与野の町を歩き、絵図が描かれた当時の人々が見た風景を探してみませんか。

▲「与野町花ノ街道」　與野みやげ絵葉書
大正元年(1912)

(見学時や撮影時には、マナーをよく守り、所有者に迷惑の掛からないようお願いいたします。)

文化財の公開のお知らせ

●無形文化財「木遣歌」がさいたま市消防出初式に出演します。

日時　平成28年1月10日(日)　雨天中止
　　10時から出初式開始、木遣歌公開は11時頃
場所　大宮消防署訓練場(大宮区天沼町1-893)

●無形民俗文化財「田島の獅子舞」を公開します。

日時　平成28年3月13日(日)16時から　雨天決行
場所　田島氷川社(桜区田島4-12-1)
※公開の時間は多少前後することがあります。詳しくはさいたま市のWebページをご覧いただくか、文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。

▲田島の獅子舞

さいたま市文化財時報
埋りぼーと　第59号
平成27年12月25日

《編集・発行》
さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
〒330-9588　さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723　FAX048-829-1989
http://www.city.saitama.jp/

この刊行物は1,200部作成し、1部あたりの印刷経費は48円です。